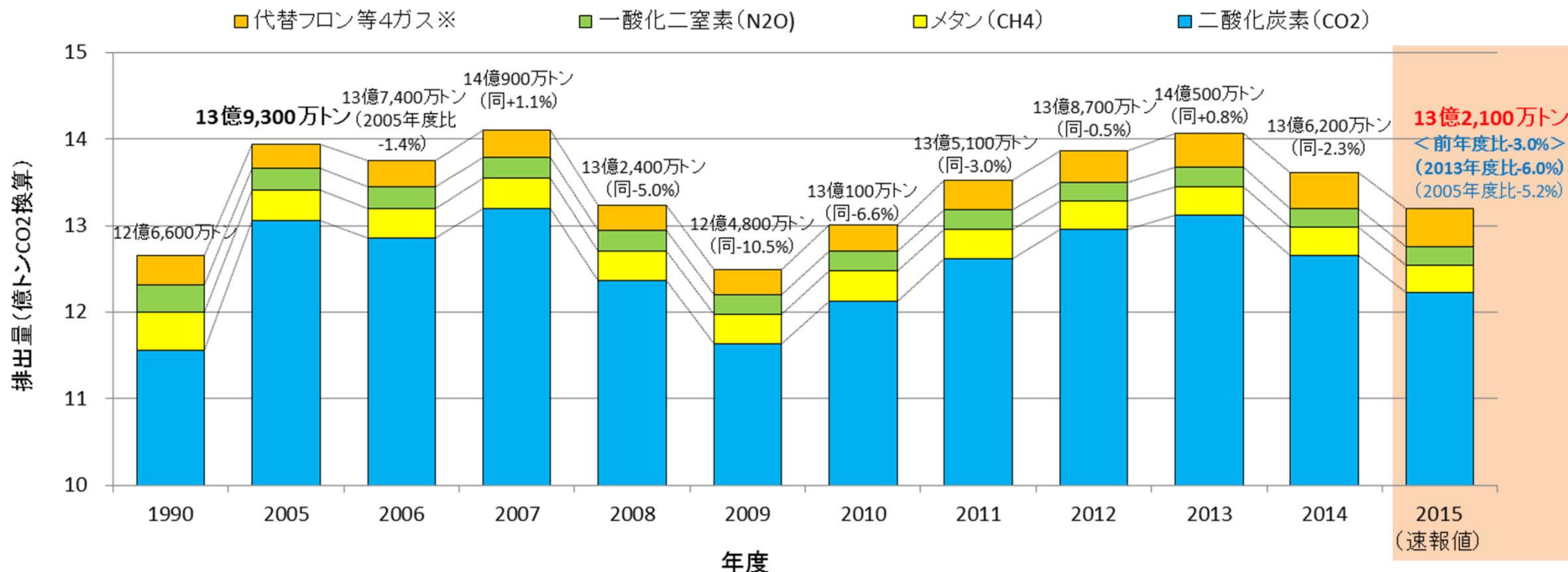


- 2015年度(速報値)の総排出量は13億2,100万トン(前年度比-3.0%、2013年度比-6.0%、2005年度比-5.2%)
- 前年度と比べて排出量が減少した要因としては、電力消費量の減少や電力の排出原単位の改善に伴う電力由来のCO₂排出量の減少により、エネルギー起源のCO₂排出量が減少したことなどが挙げられる。
- 2005年度と比べて排出量が減少した要因としては、オゾン層破壊物質からの代替に伴い、冷媒分野においてハイドロフルオロカーボン類(HFC_s)の排出量が増加した一方で、産業部門や運輸部門におけるエネルギー起源のCO₂排出量が減少したことなどが挙げられる。



出典:「2015年度(平成27年度)の温室効果ガス排出量(速報値)について」(2016年12月、環境省)に基づき作成。

※代替フロン等4ガス:ハイドロフルオロカーボン類(HFC_s)、パーフルオロカーボン類(PFC_s)、六ふっ化硫黄(SF₆)、三ふっ化窒素(NF₃)

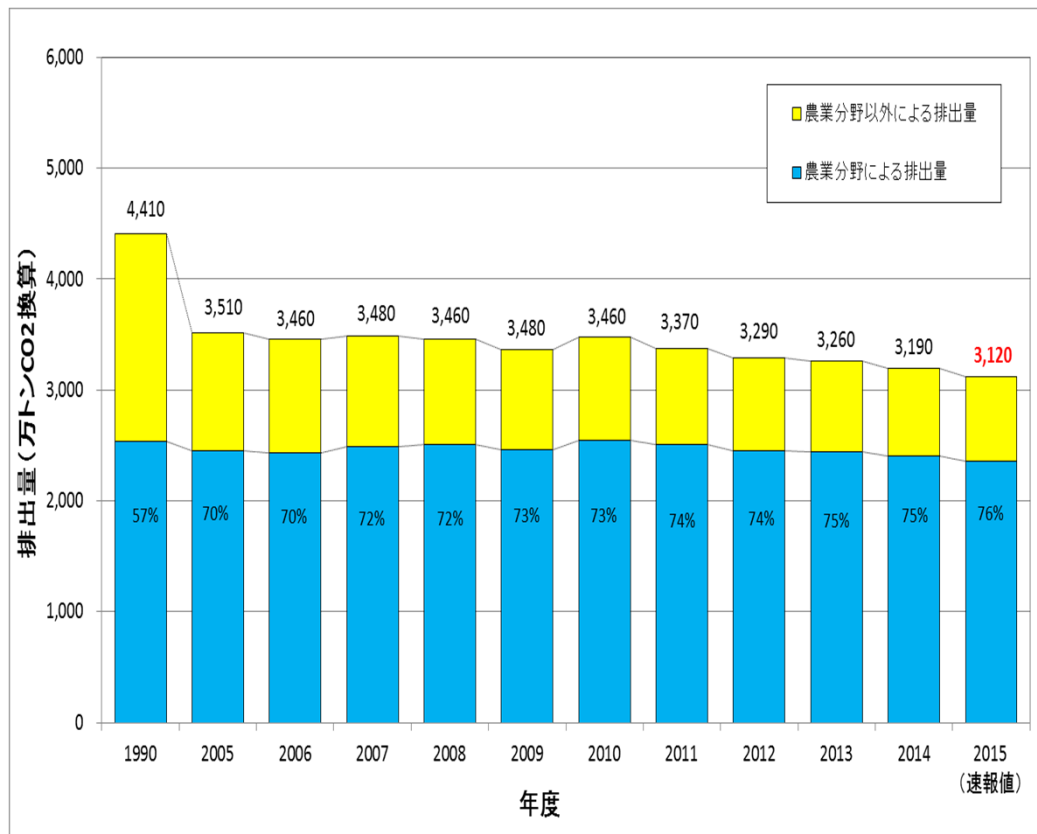
注1:2015年度速報値の算定に用いた各種統計等の年報値について、速報値の算定時点で2015年度の値が未公表のものは2014年度の値を代用している。また、一部の算定方法については、より性格に排出量を算定できるよう見直しを行っている。このため、今回とりまとめた2015年度速報値と、今年4月に公表予定の2015年度確報値との間で差異が生じる可能性がある。なお、確報値では、森林等による吸収量についても算定、公表する予定である。

注2:各年度の排出量及び過年度からの増減割合(「2005年度比」等)には、京都議定書に基づく吸収源活動による吸収量は加味していない。

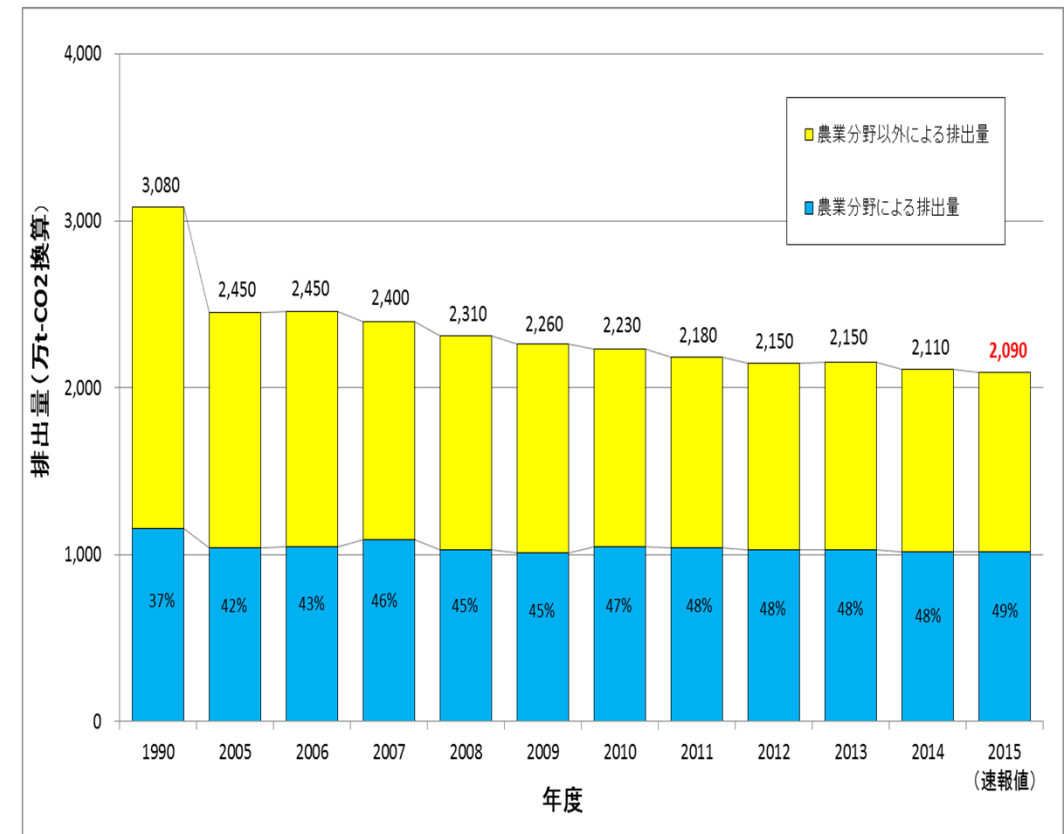
農業分野における温室効果ガス(CH₄、N₂O)排出量の状況(2015年度速報値)

- 2015年度のメタン(CH₄)総排出量は約3,120万t-CO₂換算(前年度比▲2.4%)であり、うち農業分野(家畜の消化管内発酵、稲作等)が約2,350万t-CO₂換算(前年度比▲2.3%)と約75%を占めている。前年度からの総排出量の減少は、農業分野において排出量が減少したこと等によるもの。
- 2015年度の一酸化二窒素(N₂O)総排出量は約2,090万t-CO₂換算(前年度比▲0.9%)であり、うち農業分野(農用地の土壌、家畜排泄物の管理等)が約1,020万t-CO₂換算(前年度比▲0.2%)と約50%を占めている。

メタン(CH₄)



一酸化二窒素(N₂O)



出典:「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2015年度速報値)」(温室効果ガスインベントリオフィス <http://www-gio.nies.go.jp/index-j.html>)に基づき作成。

注1:メタン(CH₄)及び一酸化二窒素(N₂O)の排出量の値はCO₂換算値。

注2:速報値においては、二酸化炭素(CO₂)の総排出量は公表されているが、農林水産分野の排出量は、公表されていない。